

自動車を支える サプライヤーの 底力カラ

☆25☆

現場重視で

深井製作所(栃木県足利市、深井孟社長、0284・40・2020)は自動車の骨格部品が主力だ。金型・治具の設計製作の高度技術をベースにしたプレス加工に定評があり、富士重工業の全車種、日産自動車の高級車「フーガ」やスポーツ

カー「GTR」などに採用されている。生産面の取り組みもユニーク。例えば自動搬送用ロボット生産ラインで

インが現場でいかに使いつらいかを肌で感じるため(深井社長)だ。これにより必要以上に長かったロボットアームを設計変更し、最小限の長さにとどめた。生産ラインの治具も取り付けを工夫し、1ラインで最低

業を目指し、技術主導型に軸足を移した(同)。実際、従業員約430人のうち約120人が技術者で、大手企業と同じ目線ですべての部品を削減、軽量化している。

上した。異なる材質・板厚の材料を溶接で接合する車体骨格製造技術のテラードブランク工法によって補強材などの部品点数を削減、軽量化している。

期待の新技术

例えば大手鉄鋼メーカーとハイテン材(高張力鋼板)を共同開発し、強

そして今、ひとつの新技术の花を咲かせようとしている。ハチの巣のよう

技術主導型に軸足移す

エンボス成形板を提案

深井製作所

性を約20%向上した。「15年前から提案型企

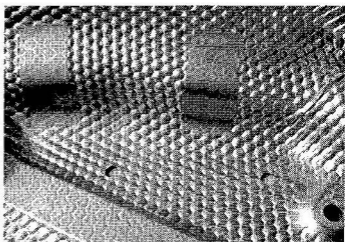
度を従来比3倍の1200が1270が怒に向

技術だ。自動車の排気管を覆うヒートインシュレ

板厚を30%薄くしてもほぼ同じ剛性を確保できる

の台頭により、業界は変

なる。(木曜日掲載)



1タ(遮熱板)向けに開発した技術で、平板より

3年後に

この80%が自動車業界以外だった」と笑顔を見せる。

3年後に

ハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)といった環境対応車

の3年後は環境技術の実用化の時期と重なる。

10年度は売上高170億円の見込み。現在はエコノミーからビジネスクラスに乗れるようになってきたところ。3年後には経

常利益率5%のファーストクラスに座りたい」と

「すでに問い合わせて50件もある。でも

10月に特許を取得した。「3年後には何らかの新技术を確立したい」と意気込む。

正六角を並べた金属板向けエンボス成形加工

革期を迎えている。だが「どんなクルマにも骨格部品は必要なので影響ない」と強調する。とはいえ環境技術の高度化が最重要テーマであることに変わりはない。このため今月から大手企業の技術者を顧問に招いた。「3年後には何らかの新技术を確立したい」と意気込む。